

## 「馬場小室山遺跡フォーラム」第58回ワークショップ

【パブリック・アーケオロジー入門】

馬場小室山遺跡を形成した「見沼文化」(人類活動と環境変遷)の追及、そして未来への展望と継承

### 1. 【活動】 秩父と見沼合同<3・11山田湾文化復興祈念>シンポジウム: 事前検討会

#### 1-1. 「縄文人は何を考え、どう生きたか? <<第1回>>」の検討方針

・発表者資料をパブリック・アーケオロジーの2つの展開方針からパネル・ディスカッションの問いかけを導く。

##### <パブリック・アーケオロジー「第一幕」(視点の多様性)からの検討>

・考古学のこれまでの学説にとらわれず、しかし、1万年という時間軸は決して忘れず、あくまで時間の経過に対して行われる、あるべき問いかけへの目的と意義を具体化する。

##### <パブリック・アーケオロジー「第二幕」(新たな可能性)からの検討>

・これからの考古学はどうあるべきか、考古学の現代史をパブリックの中でどう位置づけることができるか、失ったものの価値を「癒し」に留めることなく、コミュニティ生成論の原点として考古学が対象とすべき視野の拡大と未来化を目指す。

#### 1-2. 「縄文人は何を考え、どう生きたか? <<第1回>>」の発表資料

(1) 齋藤弘道氏: 「縄文土器の形と用途」/A4\*4枚

・縄文時代の土器全体の総論: なぜ新たな形が生まれたのか?

(2) 井出政男氏: 「土器づくりを粘土から考える!」/A4\*4枚

・土器づくりと煮沸実験の成果報告: なぜ粘土のブレンドを思いついたのか?

(3) 宅間清公氏: 「土器づくりの粘土には何を混ぜたのだろうか?」/A4\*?枚

・繊維土器や雲母キラキラ阿玉台などの紹介: 混ぜることを思いついたのはなぜか? 切っ掛けは?

(4) 鈴木正博氏: 「数千年前に海だった見沼低地に出現した謎の縄文土器」/A4\*4枚

・報告から30年経つ寿能遺蹟最下層の草創期「寿能式」を紹介: 孤立した土器づくりは何故か?

(5) 田部井功氏: 「1,500万年前に海だった秩父盆地の縄文土器」/A4\*6枚

・後期後葉には「高井東式」が主体を占める秩父の紹介: 馬場小室山遺跡とは言葉も違うか?

(6) 常松成人氏: 「効率のよい塩づくりに考案された土器が見沼にも!」/A4\*4枚

・装飾が盛んな晩期に無文薄手粗製土器が大量に遺棄される地域も紹介: 効率も考える意味は?

★「形と用途」が目的のため、疑問点が発散する可能性を危惧し、今回は装飾性の高い土器は積極的に紹介せず、造形形態を見てもらう資料選択は伝わるか? 装飾の意義に関心が移行することを祈念しつつ。

### 2. 【マネジメント】 合同シンポジウム<<第2回>>の企画 :

・現在、10回程度のシリーズ企画として検討中。第2回は「語りはじめた土偶たち」をテーマとしたい。

### 3. 【DVD鑑賞】 「物語る黒浜貝塚」: 企画・製作者の浅野光彦氏からのメッセージ

「今回の映像製作の原点は「馬場小室山遺跡に学ぶ」の制作に関り、馬場小室山に学ぶ市民フォーラムの方々に出会ったことにあります。従って、今回の映像作品の制作の動機は馬場小室山に学ぶ市民フォーラムの精神性の表現にあったといえます。

つまり、「パブリック・アーケオロジーとは何か」ということを問うときの一つの参考資料を馬場小室山に学ぶ市民フォーラムから世に提示したいということを志したのです。

そういう意味で、この映像作品の原点にあるメンバーに先ずお見せすることが本来であり、その願いが実現できて良かったと思います。」

### 4. 【連絡】 その他活動連絡・予定:

(1) 11/3(日)の予定:

・浦和駅東口前パルコの上階コムナーレ9F 市民活動センターにAM11時集合。

配布資料のコピー70部と丁合・ホッチキス止め製本を行います。

・18:45に南浦和駅西口徒歩7分のさいたま市文化センターしらさぎホール集合

「飯塚邦明 ジャズピアノコンサート」19:15開演

(2) 「馬場小室山フォーラム」第59回ワークショップ(12/21(土)予定): 10周年記念イベントとして企画中!

以上